熱田魚問屋モニュメント
Atsuta Wholesale Fish Store Monument

大瀬子公園の辺りにはかつて熱田魚市場がありました。
このモニュメントは、魚問屋として使われていた建物の保存部材を活用して庇（ひさし）の一部分をイメージしたものです。
明治初期の建築で、規模も大きく、庇は5本の柱を並べた幅約18mの広大な作業空間であり、熱田の魚問屋の面影を伝える建物でした。
柱には魚の扱いなどに用いた手かぎの痕（あと）が残っています。

手かぎの痕

解体前の旧魚問屋と庇部分

熱田魚市場
Atsuta Fish Market

室町時代には、熱田で魚の市が開かれており、織田信長の居城であった清須城に魚を運んだといわれています。
江戸時代には、大瀬子と木之免に魚問屋が設けられ、魚は問屋を経て市場で売買されました。
尾張名所図会「熱田の濱（はま） 夕上り魚市」には、江戸時代末期の夕方の熱田魚市場の様子が描かれています。市は、朝と夕の2回開かれ、大変にぎわっていました。

熱田の濱　夕上り魚市（尾張名所図会）

※尾張名所図会（おわりめいしょずえ）：江戸時代の尾張地域の名勝、史跡などを絵と文章で紹介した地誌

名古屋に残る東海道
Tokaido Lives on in Nagoya

東海道のうち、現在名古屋市域に含まれるのは、東は緑区から西は熱田区までの約11kmです。
この間にあった宿場は鳴海宿と熱田宿の2つで、鳴海宿の東約1kmのところには、絞り染めで発展した有松のまちがあります。
熱田宿から次の桑名宿までは、東海道唯一の海路であり、熱田湊（みなと）には「七里の渡し」と呼ばれた渡し船の船着場がありました。

熱田（宮）宿 Atsuta(Miya)-shuku

熱田神宮の門前町・湊（みなと）町として古くから栄えた熱田は、東海道一の規模を誇る宿場町でした。熱田の宮があるので「宮宿」と呼ばれました。
熱田には、七里の渡し場跡、脇本陣格の旧旅籠（はた）、東海道の道標など、まちの歴史を伝えるものが多くあり、身近に歴史を感じることができます。

熱田宮全図（西尾市岩瀬文庫蔵）

鳴海宿・有松 Narumi-shuku・Arimatsu

鳴海宿は、熱田宿と池鯉鮒宿の間にある、品川から数えて東海道40番目の宿場でした。
鳴海には、宿場の東西の入口に常夜灯が今も残るほか、高札（こうさつ）場が復元されています。
また、有松には、東海道沿いに広い間口を持つ絞商の主屋や門、塀が数多く見られ、その歴史的町並みは国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

瑞泉寺（尾張名所図会）

熱田魚市場跡

東海道道標

笠寺観音（尾張名所図会）

笠寺観音

笠寺一里塚

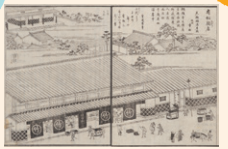
旧旅籠屋 伊勢久

熱田湊常夜灯

鳴海宿高札場

丹下町常夜灯

有松の町並み


有松絞店（尾張名所図会）

なごや歴史探検

「なごや歴史探検」は名古屋の歴史・文化資産などを紹介するスマートフォン用アプリケーションです。
東海道に関連したコースのほか、名古屋市内の様々なコースが登録されています。
スタンプを集めながら名古屋のまちを散策してみましょう。

詳しくは市公式webサイトをご覧ください
熱田魚問屋 検索

名古屋市観光文化交流局歴史まちづくり推進室
問合せ：052-972-2780